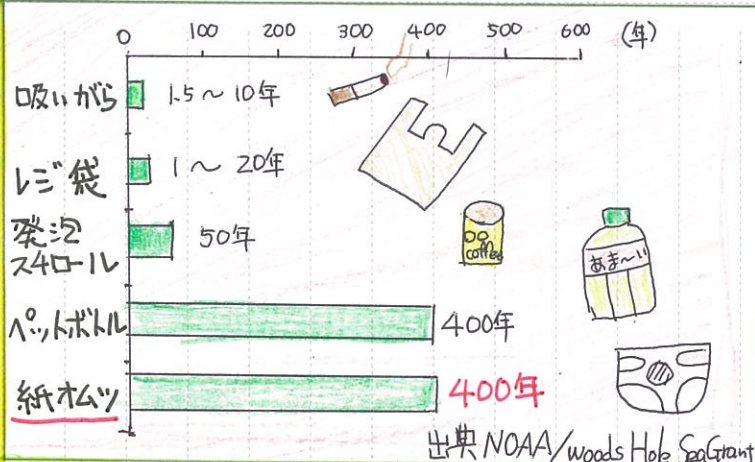


出典 一般社団法人 日本衛生材料工業連合会 ホームページをもとに作成



紙オムツ自然分解
まで400年も
そのまま海洋に捨てた場合



うみのなかましんぶん
発行所
うみのなかましんぶんしゃ
刈谷市立住吉小学校
四一二組
神崎 美香
©うみのなかましんぶんしゃ 2015

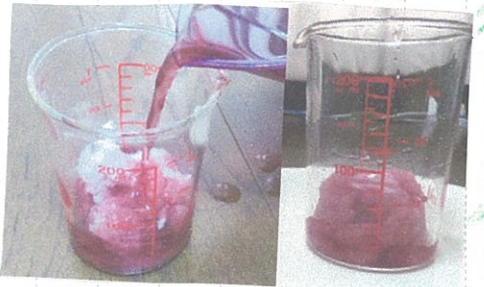
紙オムツは、紙とは名ばかりで、60%がプラスチックでできています。
魚なので、私もマイクロプラスチックを食べていると考えられる。
誤食したプラスチックが腸にたまって、海のなかまはたくさん死んでいる。

マイクロプラスチックと呼ぶ。京都大学田中周平准教授の2014年の調査では、197センチのイワシの胃腸には、40%にあたる74個から、マイクロプラスチック140個が見つかった。
イワシは丸ごと食べる。
プラスチックを食べていると考えられる。

プラスチックは、分解されるのに時間がかかるだけでなく、細かく砕けたプラスチックは、カメをはじめ魚や、たくさん生物が、エサとまちがえて、誤食をしてしまう。細かく、砕けたプラスチック以下のゴミを、

＜実験＞

① 紙オムツを流したらどうなるか。
紙オムツから取り出した、プラスチック(高吸水性ポリマー)ポリアクリル酸ナトリウムに、グレープジュースを注いだ。あっとい間にゼリー状に。下水に流したら、つまりそう。



② ①のゼリー状の物に、塩を混ぜるとどうなるか
細かく、おむつをくだいて流した後に、水を抜くためには、塩を使う。ゼリーから、グレープジュースが、再び出てきた。火を止めるように、もっと確実に脱水する研究らしい。

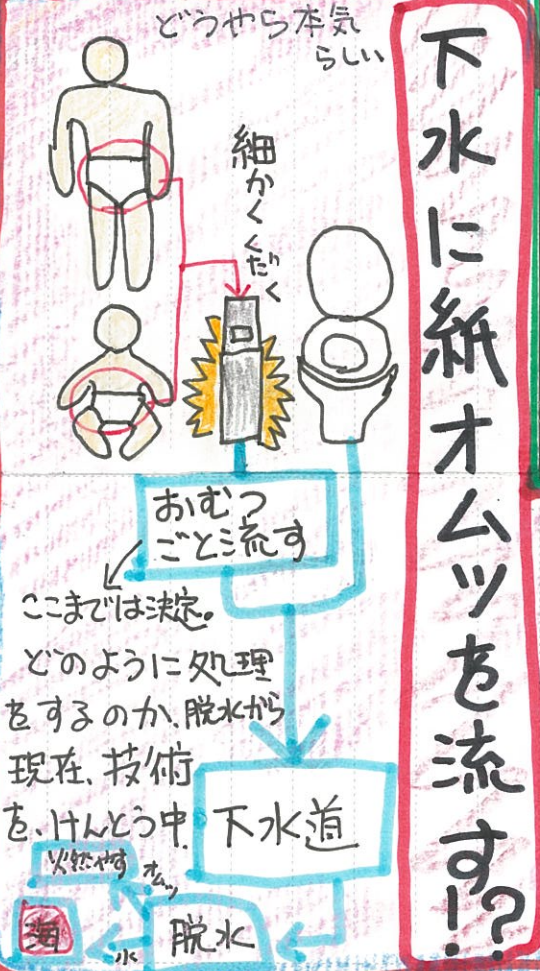
③ 粒状のポリマーで、同じ①②の実験をしてみた
A 何もせず
B 1分水につけた
C 1日水につけた
D 1日塩の中にCをつけた。
ほぼ元の大きさに、脱水成功

現在、水をらくんだポリマーを、脱水して、フィルターを通して、川や、海に流す計画のようだが、紙オムツに入っているポリマーは、細かくて、粒の径は、700マイクロメートル以下。まさに、マイクロプラスチック。今の技術では、紙オムツを流すと、海に流れていってしまう。



私の卒園した、こま保育園は、今でも布おむつです。今回の実験では、今のうちに、紙オムツを令けてもらいました。私と同じ夜だけ紙オムツが早く外れたし、別に大変じゃなかったと言っていました。プラスチックを減らすと、いいな。

実験 紙オムツを流すと



国土交通省は、下水道への紙オムツ受入実現に向けた検討会を立ち上げた。2022年にガイドラインを作り、下水に流すことを実現予定

高次安立荘「オムツゼロ」
国際医療大学竹内教授が始めた、「オムツゼロ」は、日中の運動や、1.5Lの水を飲むことで、オムツから、トイレに切りかえる。8年間の取組で、40%の人がオムツゼロになったのが、0%。(120人中、5人はオムツ)

紙オムツは、プラスチックを減らすにはオムツも減らす。特別養護老人ホームで「オムツゼロ」になったそうです。竹内教授の調べでは、全国で百三十の特別養護老人ホームで「オムツゼロ」になったそうです。

紙オムツ減らすそう
使用済み紙オムツは、一年間で250万トン。ゴミの量の約7%となっている。日取近、ストローや、プラスチックのレジ袋をやめようという話をよく聞く。オムツも減らせないのだから、今年四月から、オムツを使う人も、減らすように保険が追加で支払われるようになります。

へん集後記

私の卒園した、こま保育園は、今でも布おむつです。今回の実験では、今のうちに、紙オムツを令けてもらいました。私と同じ夜だけ紙オムツが早く外れたし、別に大変じゃなかったと言っていました。プラスチックを減らすと、いいな。